

タイ語形容詞の意味と構文

—日本語との対照—

田 中 寛

Semantic and Syntactic Analysis of Thai adjectives

— In Contrast with Japanese —

Hiroshi Tanaka

For the contrastive analysis of vocabulary, especially that of adjectives, several points need to be noted. The first is the identification of the word. In this paper, some of the syntactic features of Thai adjectives will be discussed and then their distribution in certain sentence patterns will be compared with those of the Japanese language. Second, some of the basic Thai adjectives will be contrasted with Japanese adjectives for their overlaps and differences in meaning. Their synonyms will also be considered.

In discussing adjectives, it is necessary to take into account the connotations, both social and personal, of the words to be analyzed, since the lack of such knowledge may make ambiguous the discrepancies in the meanings of these words. In this regard, it should be emphasized that the comparison of vocabulary should be done in such a way that the understanding of different cultures and their sense of values is deepened.

【要旨】語彙に関する対照研究で、形容詞の比較の場合、いくつかの注意すべき問題点がある。まず、品詞の認定であり、次にその語のもつ意味範囲である。本稿ではタイ語の形容詞の統語的な特徴をみたあと、いくつかの構文においてどのようにあらわれるかを日本語と比較する。また、その他の統語的な問題として補足成分や反対語、品詞の派生などについてもふれる。次に基本的な形容詞のもつ意味範囲と日本語との意味の重なり、区別、類語的な問題についてみていくことにする。

形容詞を考える場合、その言葉のもつ社会的、日常的背景にもとづく発想、社会通念を知る必要がある。そうした事実立脚した認識を欠けば意味的なズレを生じる危険性が多分にある。語彙の比較を通してさらに価値観、文化の理解に努めることが大切であろう。

【キーワード】タイ語 形容詞 意味と構文 意味範囲 文化的背景

1. はじめに—日本語教育と対照研究

外国人日本語学習者がふえるにつれて、学習者の母語と日本語との比較研究は、教育上からも重要な課題の一つとなってきた。外国語との対照研究の対象と範囲、方法をめぐる議論は、効果的な言語習得を考えるうえで常に有効な手段たりうるかという具体的な問題を提起してやまない。なお未整理な分野の多いなかで、経験的に収集された多様の、個別的な類例から体系的、一般的な規則、相違点の解明をめざす対照研究の最終的課題は具体的に両言語間の使用、構造の違いを知ることによって、背景としての文化、発想の理解に接近することであり、さらに誤用例の収集分析・研究などに関連して、より簡潔な中間言語を整理すると同時に、目標言語と学習者母語との相互干渉をできるだけ少なくすることにある。

日タイ語両語の比較対照については、最近少しずつ発表されてはいるものの、一部の報告や内部の修士論文などを除けば、まだ一般には目に触れ

ることの少ない分野であろう。いずれ、タイ語の文法記述の研究と並行して、タイ語学習書や日本語の母語別教材の開発等の作業を経ながら、順次的に積み重ねられていくものと思われる。

さて、対照研究の対象としては音声、語彙、構文などの分野があるが、その言語背景としての社会、発想、習慣などについての理解も大きく関与する。なかでも語彙と意味に関しては個別的でもあり、また比較の対象ともなりやすいものの、使用上多くの問題が残されている。本稿では基本的な形容詞語彙を例に統語的な問題、意味発想の違い、運用上の注意などを考えてみることにしたい。形容詞はその国の言語文化、習慣などを観察する上で興味深いだけでなく、他の品詞との関連性もあることから、基本的な語彙に関する分析は極めて重要なものとなろう。

2. 品詞と構文の諸問題

語彙の対照研究の場合、品詞の分類と呼応関係ということが関心の対象となるものの、明瞭な線引きが不可能な場合が多い。形容詞の場合も例外ではなく、核となる部分と、周辺部分とでは特徴のあらわれかたに違いがみられる。指示的な概念の強いものは名詞寄りであろうし、状態動作の意味を表すものは動詞寄りと考えることもできる。いずれにせよ、析出される概念実体は、その叙述対象によって多岐にわたる。

タイ語の品詞分類についてはタイ国学士院編纂の国語辞典などによれば動詞、代名詞、名詞、前置詞、修飾詞、接続詞、感動詞の七品詞に分類される。名詞を修飾する形容詞 (kham-khunnaṣāp) と、動詞を修飾する副詞 (kriyaa-wisēet) は同一形であることから、通常この二つを修飾詞 (kham-wisēet) と称する。前述の辞書によれば、kham-wisēet とは、

他の語を組み立てて(または他の語に添えて)、変わった意味内容
を表していくのに用いる品詞で、十種類に分類される…

とある。今日の権威ある文法書にもほぼ同様の定義と分類が記されている。タイ語の修飾形容という概念は、prakḥōp（組み立てる、添える）という語で説明されるほか、概念理解を助けるためにしばしば kham-khāyāay と称することもある。この khāyāay は「拡大する」という意味で、形容詞は名詞を拡大し、副詞は動詞を拡大するものである。そして、十種類とは、性状修飾詞、時間修飾詞、場所修飾詞、数量修飾詞、疑問修飾詞、指示修飾詞、不定修飾詞、呼応修飾詞、否定修飾詞、関係修飾詞をさすが、こうした広範囲の分類では依然、「形容詞らしさ」は不透明なままである。このうち、性状形容詞が、日本語の一般的な、ごく常識的な範囲内での形容詞に相当するといえよう。

一方、こうした伝統的な分類に対して、機能上から、形容詞を動詞の範疇に位置づけて考える立場がある。これはタイ語が孤立語であり、どの品詞成分かは文中の語の位置によって決定されるという特徴にもとづく点、それに否定詞や文末の完了をあらわす助動詞などの付加成分が共通してみられるという点などによる。形容詞が動詞として用いられる場合、普通の動作・行為を表す動詞に対し、「注1)静的な動詞」と称することがある。

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1) hǎo-tookiao sūŋ sák-thāoray | 東京タワーの高さは |
| [東京タワー・高い・どのくらい] | どのくらいですか |
| 2) kháo kèŋ phaasāa-aŋkrit | 彼は英語が得意です |
| [彼・上手・英語] | |

つまり、形容詞が述語成分であれば積極的に動詞（上の例では「高さをもつ」、「得意とする」）と見なされるのである。中国語の品詞でしばしば言及される形容詞と動詞の兼類といったことも、タイ語ではさらに副詞的な要素も加えて、いわば常識的な特徴とされている。このような統語的にも複雑な特徴を有することから、当然さまざまな問題がみられるが、以下では、注2)そのごく基本的な構文上の諸特徴をみていくことにする。

2. 1 修飾構造について

名詞に直接にかかる修飾構造の特徴をみてみよう。タイ語では統語上、修飾語は被修飾語の後ろに置かれるという語順の特徴がある。従って次の文は文単位か、語彙単位かでみることによって、両義性が認められる。

- | | | |
|----------------------|------------------|------------|
| 3) <u>bâan yày</u> | A) 家が <u>大きい</u> | yày ; 述語成分 |
| [家・大きい] | B) <u>大きい</u> 家 | yày ; 修飾成分 |
| 4) <u>aakàat dii</u> | A) 天気が <u>いい</u> | dii ; 述語成分 |
| [天気・いい] | B) <u>いい</u> 天気 | dii ; 修飾成分 |

だが、現実には、A) のような連語の場合、指示物の絶対的な規定、潜在的な比較などの状況下でなければ、通常、単独の述語成分とはなりにくい。また、B) のような修飾語や関係代名詞を用いたときに、意味的な「限定」をもつ形容句となることが多い。
注3)

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 5) <u>phuukhǎo sǔuŋ lûuk nón</u> | あの高い山 |
| [山・高い・〈類〉・あの] | (類; 類別詞) |
| 6) <u>khon thîi sǔay thîisùt</u> | 一番きれいな人 |
| [人〈関〉きれい・一番] | (関; 関係代名詞) |

2. 2 並列構造について

タイ語では語列は比較的自由的な構造を有しているので、動詞文でも例えば「考えごとをして歩いている」なども簡単に dǎn khít [歩く/考える] のようにあらわすことができる。形容詞の [A/B] というような語の並列についてもそのまま述べたり、語形変化がない代わりに接続語を使うことからタイ人の日本語学習者のなかには次のような表現の誤用が多くみられる。日本語の形容詞の接続のしかたについては注意が必要である。
注4)

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| 7) <u>sǐsà yày khǎa sân</u> | * 頭が大きい足が短い |
| [頭・大きい・足・短い] | (頭が大きくて足が短い) |

- 8) hōŋ ní kwâaŋ lé sàwàaŋ *この部屋は大きいと明るい
 [部屋・この・広い・と・明るい] (大きくて明るい)

2. 3 時制のマーカ

語形変化がないわけであるから、過去や未来を表そうとすれば、時をあらわす時間副詞や助動詞を補うことになる。この点も「動詞的」である。
(注5)

- 9) aathít-nâa cà yūŋ 来週は忙しいです
 [来週 <未> いる] (未; 未来の助動詞)
- 10) mūwaaŋ kōw rōŋ 昨日も暑かった
 [昨日・も・暑い]
- 11) kamlāŋ dīi ちょうどいい(ところ)です
 [ところ・いい]
- 12) yaŋ mày yūu まだ新しい
 [まだ・新しい・いる]
- 13) khəy mīi-chūu-sǎaŋ 有名だった(ことがある)
 [ことがある・有名だ]

2. 4 疑問文の種類

次に疑問文では日本語の「か」にあたる疑問文末詞がいくつかある。

- 14) a. [yâak] rǔu? [難しい] んですか?
 b. [---] máy?/rǔu pláao? [---] ですか?
 c. [---] máy?/chây máy? [---] でしょう?
 d. [yâak] rǔu [ŋâay] ? [難しい] ですか [易しい] ですか?

この疑問文のつくりかたも動詞文と同様である。しかも、このうち、a. の rǔu だけを用いた場合、「～なのか」というように、「自分はそう思っていないが本当にそうなのか」というモーダルな疑念、あるいは問い返し

意味が強くあらわれる。日本語の疑問の「のだ」構文はほぼ a. と重なっているといえる。b. は通常の疑問文、c. は確認、念押しの意味を含む疑問文、d. は rŭuu をはさんだ選択疑問文である。

2. 5 命令文

文頭に命令・依頼の「ください」に相当する pròt、chúay などを用いて動詞文のように表すほか、単に重ねて命令文をつくるものもある。

15) pròt ģiap! 静かにしなさい!

16) ģiap-ģiap! 静かに!

このほか、使役成分の hây をもって具体的にあらわす言い方もある。

17) chúay choġ hây ðon-ðon nõy ちょっと薄くしてください

18) pròt tham hây sà'aat きれいにしなさい

hây は前後に動詞と形容詞を配して、〈XしてYにする〉という意味を示す。17) は例えばコーヒーを薄くしてほしいときに言う言い方で、「入れる」という具体的な動作の動詞とともに用いているし、18) の場合は、tham のほかに具体的な行為をあらわす動詞もあらわれる。このような動作の結果的な状態をあらわす副詞的用法については 4. 2 のところで述べる。

2. 6 否定詞の位置と程度成分

形容詞の否定は動詞と同時に、その前に否定詞の mây をつければよいが、mây-chây (wâa) を用いると一部否定の言い方になる。

19) a. mây rón 暑くない

[ない・暑い]

b. mây-chây rón (yàaġ diao) 暑くはない(～だけではない)

[ではない・暑い・(だけ)]

c. mây-chây wâa rón 暑いというのではない

[象・鼻・長い]

- 27) thii muangthay khǒɔŋ raakhaa thùuk *タイで物が安い
 [で・タイ国・物・値段・安い] (タイは物が安い)

2. 8 変化をあらわす構文

「暑くなる」「寒くなる」のように程度の変化が認められる場合には、方向動詞を後につけてあらわす。原則として khûm は「プラス」の方向、log は「マイナス」の方向を意味する。ただし、結果を含意するものについてはその限りではない。そのほか、新しい事態の出現には cà をつけたり、継続の pay、不可避の sĩaなどを、完了をあらわす léɛo とともに用いる場合もある。

- 28) rǒn khûm 暑くなる yen log 涼しくなる
 29) dæŋ 赤い／赤くなる ŋuan-nɔn 眠い／眠くなる
 30) phǒm pay léɛo やせてしまった
 31) kèe sĩa léɛo 古くなってしまった
 32) cà rúusùk khlúunsây 気持ちが悪くなる

2. 9 程度の強調と程度成分

次のように、形容詞は重ねることによって意味が強調される。発音上は前の音節に比べ、後の音節のほうを強く、長めに発音される特徴がある。

- 33) rǒt càt-càt 味が濃い sǔay-sǔay とてもきれいな^(注7)
 [味・濃い] [美しい]
 sǔuŋ-sǔuŋ とても高い nǒy-nǒy ほんのちょっと
 [高い] [少し]

構文的な反復としては次の言い方がある。これも強調表現の類型である。

- 34) yàŋ kǒw yàŋ 大きいといったら大きい

35) wâaŋ ná wâaŋ ひまなことはひまだ

また、形容詞の程度表現は、後続の副詞とともに表されることが多い。単音節形容詞が単独で用いられにくいことは中国語と類似する。

36) sǎay mâak 大変きれい nǎay cǐŋ 本当に疲れた
 sanùk dìi なかなか面白い arǎy chiao 実においしい
 phæŋ pay 高すぎる mâak kǎen-pay 多すぎる
 yây lǎa-kǎen 非常に大きい phèt thiidio まったく辛い

こうした程度表現の強調には、ほかに次の言い方が口語でみられる。

37) rǎon cà taay 死ぬほど暑い

38) yûŋ pen bâa ばかに忙しい

感嘆文では次のように文頭や文末に châŋ, caŋ をつけて表す。

39) châŋ ŋô! なんとバカな!

40) phæŋ caŋ! わあ高い!

一方、「～と感じる」という主観的な印象をあらわす言い方では、wâa の有無によって、多少の意味の違いがみられる。

41) a. rúusùk ŋâay やさしく感じる

b. rúusùk wâa ŋâay やさしいと感じる

では、wâa をともなう文において、より判断的な要素が強くあらわれる。

程度成分について、あと少しふれておく。まず、「難易文」であるが、これは日本語の「～やすい／にくい」に相当する ŋâay/ yâak を動詞の後につけて用いられるほか、適当な補語的成分をとともなうこともある。

42) rót khan-níi khâp ŋâay この車は運転しやすい

[車・台・この・運転する・易しい]

43) chây-chiiwít ŋâay 暮らしやすい

[暮らす・易しい]

44) muaŋ thîi yùu sabaay 住みやすい街

- [街・関・いる・快適だ]
- 45) thanǒn-níi dǎən lambàak この道は歩きにくい
[道・この・歩く・困難だ]
- 46) tua-nǎŋsǔu-níi àan yâak この字は読みにくい
[字・この・読む・難しい]
- 47) pàakkaa thîi khǎn khlǒŋ dii 書きやすいペン
[ペン・〈関〉・書く・流暢・いい]
- 48) pàakkaa thîi khǎn mây khlǒŋ 書きにくいペン
[ペン・〈関〉・書く・ない・流暢]
- 49) kháo phûut mây chăt 彼は話すのがはっきりしない
[彼・話す・ない・はっきり]

このうち、48)、49) については否定詞の位置に注意しなければならない。否定詞を前に移動することはできず、このことは動詞とそれ以下の成分が「分說的」な二命題の関係（「～は～だ」）にあることを意味している。^{注8)}

また、一般に程度の強調として「～すぎる」に相当する言い方として、形容詞の後に kǎən-pay または pay をつけて用いる。動詞には直接つくことはなく、やはり形容詞の mâak を副詞的機能として必要とする。

- 50) phǒm khun yao kǎən-pay あなたの髪は長すぎる
[髪・あなた・長い・すぎる]
- 51) thaan khâao mâak pay léəo 御飯を沢山食べすぎた
[食べる・御飯・沢山・すぎる・～た]

「より～だ」、「一番～だ」などの比較、最上級をあらわす言い方は、形容詞の後にそれぞれ kwàa や thîisùt をつければよい。

- 52) wan-níi rǒn kwàa mûawaan-níi 今日昨日より暑い
[今日・暑い・より・昨日]
- 53) wan-níi rǒn mûan kǎp mûawaan 今日昨日同様に暑い

[今日・暑い・同じ・と・昨日]

54) wan-níi rǒn thîi-sùt 今日が一番暑い

[今日・暑い・一番]

ほかにも程度をめぐって様々な表現が観察されるが、ここでは最後に、dii について述べておこう。dii は価値判断の中核的な意味を有しているが、その一つに形容詞のあとにつくと、話し手の満足な気持ちや賞賛をあらわす。これも「積極的な」意味の形容詞が対象となる。

55) sǔay dii けっこうきれいだ thùuk dii けっこういい
arǒy dii けっこう美味しい sanùk dii けっこう面白い

また、dii は疑問詞疑問文の文末において、婉曲的な問いかけの働きをもつと同時に、相手に対して提案や、誘いをかける口語的な表現にもなる。

56) pay kii-mooŋ dii khráp 何時に行ったらいいでしょうか

[行く・何時・いい・丁寧詞]

57) thaan kaafɛ dii máy コーヒーを飲みませんか

[飲む・コーヒー・いい・か?]

さらに文末に dii kwàa をつけると、「～ほうがいい／たらしい」といった、警告や勧め、話し手の主張をあらわす言い方になる。

58) kin yaa dii kwàa 薬を飲んだほうがいいです

[飲む・薬・いい・より]

59) pay phátthayaa dii kwàa パタヤへ行くのほうがいいです

[行く・パタヤ・いい・より]

2. 10 その他の構文

形容詞文が補文をとまなう場合を考えてみよう。

評価、価値判断、感情のありかたを述べる「～することは～である」という言い方については、kaan, また siŋ thîi, thîi などをもって先行主語

とする名詞句の後に指示詞の *nán* (それ)などを伴い、そのあとに形容詞述語があらわれるのが普通である。

60) *kaan thîi gaaŋ yûŋ ná dii* 仕事が忙しい
[こと・〈関〉・仕事・忙しい・は・いい] ことはいい

61) *thîi ca khîian hây sèt diao-nîi nán yâak* 今すぐ書き終え
[の〈未〉書く・させる・終わる・今・それ・難しい] るのは困難だ

関係代名詞の *thîi* を使った言い方では、二つの解釈が可能である。まず ^{注10)} *thîi* 以下を叙述の対象とみなすものである。この形容詞は動詞的である。

62) *mây chōp thîi cà yùu tâay bankháp-* 人に管理されるのが
[きらい・〈関〉・〈未〉・いる・下・管理する いやだ

banchaa khōŋ khray

[監督する・~の・他人]

63) *kháo aay thîi cà bōk khwaam-cij* 彼は本当のことを言う
[彼・恥ずかしい・〈関〉・〈未〉・言う・真実] のを恥ずかしがる

もう一つは、*thîi* 以下の内容が原因理由をあらわす場合である。

64) *síadaay thîi khun mây dâi maa* あなたが来なくて残念
[残念だ・〈関〉・あなた・ない・〈過〉・来る] でした

65) *yindii thîi cà chûay khun* 喜んでお手伝いします
[喜ぶ・〈関〉・〈未〉・手伝う・あなた]

66) *diicay thîi dâi phóp kâp khun* あなたに会えて嬉しい
[嬉しい・〈関〉・〈過〉・会う・と・あなた]

67) *chōok-dii thîi maa than weelaa* 時間に間に合って幸いだ
[幸いだ・〈関〉・来る・間に合う・時間]

これと関連して引用節をあらわす *wâa* にも *thîi* と似た働きがある。

68) *pen thîi nêe-chát wâa kháo koohòk* 彼が嘘を言っている
[~だ・〈関〉・確か・〈引〉・彼・嘘をつく] るのは明らかだ

69) rúusùk pen-kanwon wâa cà sǝp-dây rǝuu-mây 試験に合格でき
 [思う・不安だ・〈引〉・〈未〉・合格する・か否か] かどうか不安だ
 二つの例では形容詞は「名詞的」な働きをしている。このような対内容判断
 を処する形容詞述語文の成立については種類があり、慣用的なものもあり、
 またどのような形容詞のタイプがこのような内容修飾をとともなうのか
 について、補文構造の考察も含めて更に用例の収集分析が必要であろう。
注11)

次に形容詞のとる格成分については、タイ語では日本語の格助詞に相当
 する前置詞を連語的な構造としてともなうものがいくつかみられる。

- 70) hǝp-phák yùu klây kàp roongaan 寮は工場の近くにある
 [寮・ある・近い・と・工場]
 71) bǝrisàt yùu klay càak bàan 会社は家から遠くにある
 [会社・ある・遠い・と・工場]
 72) kaansùupburii mây dii tǝw sùkkhàphâap 喫煙は健康によくはない
 [こと・喫煙する・ない・よい・に・健康]

3. 語形と他の品詞との関係

ここでは形容詞の形態的特徴として、単純な形のものから派生した、あ
 るいは合成語となって他の品詞に転成したものについてみていこう。

3. 1 <重ね型> について

タイ語の形容詞の特徴として、類似的な音韻をふむ語彙を重ねて使うも
 のが少なくない。これは kham-sǝon と呼ばれ、歴史的にみても中国の聯綿
 詞と関連性が深いといわれる。注12) 語調を整えたり、強調の働きがある。

- 73) kwâan-khwâaŋ 広い phlǝət-phlǝən 楽しい
 khayǎn-khǎnkhǝŋ 勤勉な aociŋ-aocaŋ 真面目な
 diiðk-diicay うれしい khlǝwŋ-khlǝeo 流暢な

次のような類義的な二つの語を重ねた合成形容詞も多く見られる。

74) yày-too	でかい	lék-nóoy	小さい
ŋiap-saŋòp	静かな	kwâaŋ-yày	広大な
kào-kèε	古臭い	sǔay-ŋaam	美しい

3. 2 形容詞の名詞化

形容詞の前に khwaam をつけると抽象名詞として用いられる。

75)	<形容詞>		<名詞>
	sǔup	高い	khwaam-sǔup 高さ
	reo	速い	khwaam-reo 速さ
	sà?àat	清潔な	khwaam-sà?àat 清潔さ

これらの状態名詞はまた程度のいかんをあらわす点でも特徴的である。

3. 3 動詞の形容詞化

動詞のあるものの前に nâa をつけるとそれに相応しい価値や状態、性質をあらわす形容詞として用いられる。
注13)

76)	<動詞>		<形容詞>
	rák	愛する	nâa-rák 可愛い
	bùa	退屈する	nâa-bùa つまらない
	klua	こわがる	nâa-klua こわい
	itçhǎa	妬む	nâa-itçhǎa 羨ましい
	sǒncay	興味がある	nâa-sǒncay 興味深い
	sào	悲しむ	nâa-sào 悲しい

動詞と形容詞派生のものとの語彙的機能は次のようである。

77) itçhǎa thîi kháo sǎmrèt あの人の成功が羨ましい (動詞的)

[羨ましい・<関>・彼・成功する]

78) mii ɲən yó nâa-itçhăa お金持ちで羨ましい (形容詞的)

[ある・お金・沢山・羨ましい]

また、動詞の前に khîi をつけるとそうした価値感や性質をそなえた名づける的な言い方となる。nâa がプラスとマイナス評価の双方の意義素がみられるのに対して、khîi はマイナス評価の語彙となる。

79) <動詞> <形容詞>

aay	恥ずかしがる	khîi-aay	恥ずかしがりやの
nǎao	粘りけがある	khîi-nǎao	けちな
mao	酔う	khîi-mao	酔払いの

これを人について言うときには、次のように khon 「人」という名詞を必要とするのが普通である。これは二重構造的な修飾とみられる。

80) khon khîi-kìat 怠けもの khon khîi-luum 忘れんぼう
khon khîi-mao 酔払い khon khîi-rɔɔn 暑がりや

3.4 形容詞の副詞化

形容詞は文の位置によっては副詞になると述べたが、kham-sám と呼ばれる反復の重ね形で副詞に転成して用いられるものも多い。^{注14)}

81) <形容詞> <副詞>

klây	近い	klâyklây	近く
cháo	朝早い	cháocháo	朝早く
bao	軽い	baobao	そっと
ciɲ	本当の	ciɲciɲ	本当に

また、前置詞を用いて副詞 (句) 化したものも多くみられる。

82) yindii 喜ぶ dŭay khwaam-yindii 喜んで
phɔɔcay 満足する dŭay khwaam-phɔɔcay 満足して
dii いい dooy dii 好意的に

cij	本当の	dooy khwaam-cij	実は
sǒmkhuan	適当な	dooy sǒmkhuan	適宜
sanùk	面白い	yàaŋ sanùk	楽しく
mâak	多い	yàaŋ mâak	せいぜい
nóoy	少ない	yàaŋ nóoy	少なくとも
mii khwaamsùk	幸せな	yàaŋ mii khwaamsùk	幸せに

3. 5 心理的な活動をあらわす言い方

形容詞の前に cay (心) という語をつけると、人間の心理的な活動や思考をあらわす言い方 (A) になるが、cay が動詞、形容詞の後に置かれると動作的な心理活動をあらわす (B)。主なものとしては次のものがある。

83) A)	cay-dii	親切な	cay-khěŋ	意志が強い
	cay-têek	墮落した	cay-ráay	残忍な
	cay-nóoy	感じやすい	cay-kwâaŋ	寛大な
	cay-yen	冷静な	cay-khêep	狭量な
	cay-róon	せっかちな	cay-gâay	誘惑されやすい
B)	phoo-cay	満足する	tòk-cay	驚く
	nàk-cay	気が重い	chôop-cay	気にいる
	bao-cay	気が軽い	kleeŋ-cay	遠慮する
	róon-cay	あせる	cam-cay	いやいや～する

これらのうち、cay の位置によって品詞や意味の異なるものがある。

84)	dii-cay	うれしい	cay-dii	親切な
	róon-cay	心配する	cay-róon	せっかちな
	bao-cay	ほっとする	cay-bao	軽はずみな
	khěŋ-cay	心を鬼にする	cay-khěŋ	頑固な
	hăay-cay	呼吸する	cay-hăay	驚愕する

sǎa-cay	残念な	cay-sǎa	がっくりした
yen-cai	落ち着いている	cay-yen	冷静な

3. 6 動詞的表現について

日本語の形容詞に相当するもので、形態的に動詞となるものもいくつかある。次は mii 「ある」という動詞を慣用的に用いた言い方である。

85) mii antaraay	危ない	mii khwaamsùk	幸せな
mii chûuu sǎaŋ	有名な	mii ŋaan yûŋ	忙しい
mii prayòt	有用な	mii weelaa waaŋ	ひまな
mii khâa	貴重な	mii sà'nèe	魅力的な

そのほかに、動詞的な言い方として次のものがある。

86) khít thûŋ	恋しい	hǎa yâak	珍しい
rópkuuan	邪魔な	phéε ruua	船に弱い

4. 修飾と述語の関係

ここではさらに形容詞の副詞的用法の意味について考えてみたい。一般に副詞といっても、単に状況を修飾するものと結果を表すもののが考えられる。形態的には同じでも意味の構造において違いがみられる。

A) 速く話す (話す状態が速い) ; 「状態」修飾

B) 短く切る (切った結果が短い ; 短くなるように切る) ; 「結果」補語
 タイ語ではこれらの運用の違いは構造上、日本語とくらべて明確である。

4. 1 修飾成分の移動

タイ語では形容詞が (状態) 修飾構造と主述構造の双方に解釈されることは珍しいことではない。例えば次の文は二つの意味構造が考えられる。

87) wîŋ reo	A) 「速く走る」 ; 修飾構造
-------------	------------------

[走る・速い]

B) 「走るのが速い」; 主述構造

どちらの意味をあらわすかは場面に依存する。ただし、次のように質問は二義性を表しても、応答文では形容詞だけを用いるのが一般である。

88) wĩg reo máy?

速く走りますか/走るのが速いですか

[走る・速い・か?]

-reo

—*速くです (速いです)

[速い]

つまり、これは2. 9でみた「分説」的表現とも関係があるところで、「～のが～」という補文構造を含む言い方とみなすことが可能である。

89) khàp rôt kèn

上手に運転する (運転が上手だ)

[運転する・車・上手]

khàp rôt máy kèn

*下手に運転する (運転が下手だ)

[運転する・車・～ない・上手]

なども同様である。これらの形容詞は前の動作行為をうけた主動詞であるとも考えられる。このようにタイ語の形容詞はそのままで副詞となって動詞を修飾する一方、形式上の区別なく、動詞補語構文としても用いられるので、訳出する場合は注意が必要となる。^{注15)} 次の形容詞の位置により、副詞的な構造や連体修飾の構造になる場合をみてみよう。

90) A) tâg borisàt khũm máy

*会社をつくったのは新しい

[おく・会社・成る・新しい]

(新しく会社をつくった)

B) tâg borisàt máy khũm

新しい会社をつくった

[おく・会社・新しい・成る]

A)は別に会社を設けたという意味で、B)は最新の会社という意味である。^{注16)}

91) khây khũm sũuŋ

*熱が上がったのが高い

[熱・上がる・高い]

(熱が高くなる)

では「熱が上がった結果が高い」という意味構造になっているが、この

ような場合も日本語に直接おきかえにくいので注意が必要である。また、

92) A) phūut taròk 面白く話す／話すのが面白い
[話す・面白い]

B) lāo rûaŋ sanùk-sanùk 面白い話をする
[語る・話し・面白い]

の例では、A) は〈状態修飾〉、または述語構造として用いられる。B) は〈一般概念の規定〉(面白い話)であろう。さらに次の例をみてみよう。

93) A) sūuu rôt dāy thùuk 安く車を買う(安く買った)
[買う・車・できる・安い]

B) sūuu rôt raakhaa thùuk (値段)の安い車を買う
[買う・車・値段・安い]

A) は普通より安い値で買ったという意味で、同時に可能 dāy を含意している。B) は色々な値段がある中で安い車を買ったという意味である。したがって「(値段)の安い車」というのは〈一般概念規定〉である。さらに修飾構造と述語構造の意味的な違いをみてみよう。^(注17)

94) A) kháo thamŋaan reo 彼は速く仕事をする
[彼・働く・速い]

B) kháo pen khon thamŋaan reo 彼は仕事が速い
[彼・～だ・人・働く・速い]

A) は〈状態修飾〉でその時の仕事の仕方を言い、B) は〈一般規定〉で「仕事が速い人」という意味になっている。次のA) は可能動詞 dāy を用いる点で特徴的である。つまり「(その人は)打てるが遅い」という一般規定をあらわしている。これに対し、B) はその時の動作の状況修飾である。

95) A) phim dāy cháa タイプを打つが遅い
[タイプする・できる・遅い]

B) phim cháa-cháa ゆっくりタイプを打つ

[タイプする・遅い]

ここで可能表現にも関連しておべておこう。ある種の否定をとまなう形容詞は動詞のあとにおかれて、慣用的に不可能の意味をあらわすことができる。これも *mây* 以下は副詞的成分とみることもできる。

96) *thaan mây thanât* 上手に食べられない

[食べる・ない・器用な]

98) *bòok mây thùuk* うまく言えない

[言う・ない・正しい]

98) *sày mây dii* きちんと入らない

[入る・ない・よい]

4. 2 意図と結果

形容詞のあらわす意図と結果についても意味論的に複雑な問題がいくつか観察される。動作の到達目的の状態は、次の文のようにあらわされる。

99) *tât hây sâm* ; 短く切る *tham hây phèt* ; 辛く作る

[切る・させる・短い]

[作る・させる・辛い]

のように、「短く切る」「辛く作る」「赤く塗る」などの変化形容詞の副詞的な用法は使役の機能と関連がある。つまり、使役の助動詞の *hây* 「～させる」を使い、「何かをして～する」という意味で、それぞれ「切って短くする」または「赤くなるように塗る」という、「結果目的」に至らしめる言い方をする。次の例のように「きれいにする」の「する」のところには具体的な動作動詞があらわれることになる。

100) [*sák/kwàat/tham/ráksáa*] *hây sà'áat*

きれいに [洗う/掃く/作る/保つ]

タイ語では「シャツをきれいに洗った」というよりも「シャツを洗ってき

れいにした」という結果まで言及する言い方が一般的なわけである。ただし、会話ではこの *hây* が省略されることも少なくない。^{注18)}

- 101) *sák phâa sâ?àat-sâ?àat* きれいに洗濯する
 [洗う・服・清潔な]

さらに次の文を参照してみよう。

- 102) *thây rûup ðok-maa dâi dii mâak*
 [撮る・写真・あがる・できる・いい・大変]

- 103) *thây rûup ðok-maa dâi mâi dii*
 [撮る・写真・あがる・できる・ない・いい]

102) の文は「この写真はよくとれている」、103) は「この写真はよくとれていない」という意味である。「*写真をとったのがいい／よくない」のような「分説的」な解釈は成立しない。これも日本語では副詞的表現がタイ語では複文的な構成で意味される一例である。

4. 3. 感情形容詞の制限

一般に日本語では「彼はうれしいです」、「彼は残念です」などの言い方は不自然とされる。このように主観をともなう形容詞には第三人称には使えないものがあるが、タイ語では動詞 *rúusùk* とともに表わされる。

- 104) *kháo rúusùk sanùk* *彼はうれしいと感じます
 [彼・感じる・面白い] (彼はうれしそうです)

この場合、当事者(彼)がそう感じているのか、第三者が感じているのか日本語で区別しにくいことがあるが、後者の場合はタイ語では別の助動詞か名詞を動詞の前に用いてあらわす。例えば「彼は楽しそうだ」の文は、

- 105) *kháo duu mǔan sanùk*
 [彼・見える・ように・面白い]

- 106) *kháo thâathaaj sanùk*

[彼・態度・面白い]

のようにあらわされる。また、「～がる」という心理的な気持ちをあらわす言い方は、タイ語では「～と感じる、思う」のように rúusùk を補助的に用いてあらわされる。

107) dèkdèk rúusùk ɲao *子供たちは寂しく思う

[子供達・感じる・寂しい] (子供たちは寂しがっている)

108) nákrían rúusùk aay samǎə *学生はいつも恥ずかしいと思う

[学生・感じる・恥ずかしい] (学生はいつも恥ずかしがる)

「～そうな、そうに」という修飾成分は、タイ語では一般化した言い方になることが多く、これも日本語に言いかえた場合、注意が必要であろう。

109) mii baynâa thîi diicay *うれしい顔をしている

[ある・顔・〈関〉・うれしい] (うれしそう顔をしている)

110) rǒŋhây yàaŋ síacay *くやししく泣いている

[泣く・ように・くやしい] (くやしそうに泣いている)

5. 意味範囲と意味の重なり

5. 1 形容詞語彙の意味範囲

以上、構文上の問題を検討してきたが、ここでは基本的な語彙にかぎり、意味の重なりをみていくことにする。タイ語の形容詞には日本語と異なる意味範囲をもつものがいくつか観察される。また、一般的な意味範囲が、他の語では、個別的な意味に規定された別の語彙で表されたりする。たとえば、

111) A) yûŋ うるさい、複雑な、忙しい、…

B) うるさい nùak-hǔu, cǔu-cǔi, yûŋ…

A)、B) は対応する日本語、タイ語の個別的な意味のあらわれの例である。以下ではそうした基本的な形容詞の意味用法についてみていくことにする。

〈きれい〉の表現；

タイ語には「美しい」と「清潔な」はそれぞれ別の言葉を用いて使い分ける。また、声や曲の旋律などについては特別な言い方をする。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 112) khon-níi sǔay | この人はきれいだ |
| hôn-níi sà'àad | この部屋は清潔だ |
| phleeng-níi phró mâak | この音楽は大変美しい |

「きれいに食べた」「きれいに書いた」など副詞的に用いるときは「全部すっかり」「丁寧に」などの別の語の言い替えや、補いが必要である。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 113) kin môt | きれいに食べる／食べつくす |
| khǎn hây rǐapróoy | きれいに書く／ていねいに書く |

〈大きい・小さい〉の表現；

形状の大きさについては yà y によいが、大きく育っているという意味のときには too を用いる。yà y-too という複合形容詞も使われる。また yà y には「えらい人」という意味も含まれる。

- | | |
|----------------------|-----------|
| 114) khon too | 長男（*大きい人） |
| phûu-yà y, khon-yà y | 大人、偉い人 |

また、音が大きいときは yà y ではなく、daŋ を使う。

- | | |
|--------------|------------|
| 115) sǎŋ daŋ | 大きな音／音が大きい |
|--------------|------------|

反対に「小さい」場合は lék によいが、音の場合は bao を使う。

〈高い・低い〉の表現；

位置の高さ、背丈も sǔuŋ であらわす。音声では「とがった」という意味の reem を用いる。反対に低いのは地位・温度・音声なども一緒に tà m を使うが、人の背丈に限って、tía を使う。値段の高さは phæŋ, thùuk (高価な、安い) を用いる。

〈やさしい〉の表現；

「親切な」という意味では caydii、「容易な」という意味では ñà y とい

うように別の言葉を使う。ŋâay は動詞のあとについて「(読み) やすい」などの補助動詞ともなるが、「やすいーやさしい」のようにタイ人学習者には意味の混乱が生じやすいものの一つである。

〈長い・短い〉の表現；

時間の長さには naan, 距離の長さには yaa0 を使うが、「短い」場合はいずれも sân を使う。

116) weelaa naan / sân	長い／短い時間
phǒm yaa0 / sân	長い／短い髪

〈からい・あまい〉の表現；

次に味覚に関する形容詞であるが、辛さには二種類、塩からい、唐がらしのからいがある。それぞれ khem と phêt を使う。あまいは wǎan である。味の濃さ・薄さに関して「からい・あまい」をいうときがあるが、この場合はそれぞれ cāt, cùut を用いる。この外、味覚に関しては比喩的な表現がいくつかあって興味深い。

117) kháo cay-cùut	冷淡な人
khâp rôt práo	車をとばす
pàak wǎan	口がうまい
khon khem	けちな人

そのほかの味覚、嗅覚の形容詞については省略する。

〈古い・新しい〉の表現；

形、考え方、物、性質などについては kào を使い、年をとった人、動物に限って kēε をもちいる。「時代遅れ」という場合は laa samǎy (時代に遅れた) という言い方もする。sǎa (だめな／腐った) という言い方をするときもある。また、「考え方が古い」という場合は、booraan を使うこともある。反対に新しいほうは mǎy を使うが、「新鮮な」という意味では sòt を使う。なお、mǎy には動詞のあとについて「また～する／～しなおす」という補助動詞的な使い方がある。

(注19)

118) maa mày 来なおす, また来る

〈薄い・厚い・濃い〉の表現;

味が薄い場合は cùut, 色が薄い場合は òn, 厚さが薄い場合は baan, アルコール度の薄さでは bao 等で使い分ける。反対語の濃いは、それぞれ khem / càt, kèe, nǎa, nàk のように使い分けなければならない。^{注20)}

〈軽い・重い〉の表現;

重量の重さは nàk, bao を用いる。病状や雨降りの程度をいうときにも用いられる。

119) aakhaan nàk 重症

fǒn tòk bao 小降り

〈若い・年下の・年上の〉の表現;

「若い」は、日本語では男女別なく用いられるが、タイ語では男性には nùm 女性には sǎao を使う。あわせて nùmsǎao ということもある。òn は双方総称的に用いられる。反対の「年配」は kèe を使う。また「年下, 年上」という意味ではそれぞれ aayú nǒy, aayú màak という言い方がある。比較をあらわすときは kwàa を後につける。

120) òn kwàa (より) 若い

121) aayú nǒy kwàa 年が(より)若い

〈はやい・おそい〉の表現;

まず時間的に「朝早い」場合と「夜早い」場合、また同様に「遅い」場合、タイ語では時間にそった言い方がある。^{注21)}

122) cháo / hǔa-khâm 朝早く, 時間より早く / 夜・夕方早く

123) sǎay / dùk 朝遅く, 時間より遅く / 夜遅く

cháo は時間より早く、sǎay は時間に遅れてという意味がある。これに対して、速度の場合は reo (速い), cháa (遅い) を使う。

124) phùt reo, phùt cháa 速く話す, ゆっくり話す

〈強い・弱い〉の表現;

体力的に物理的に強い場合、お酒や水などに強いといった体質、性質、技能・知識に関してなどいくつかの意味範疇が考えられる。これにも個別的な使い分けがみられる。

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 125) khějɾɛɛŋ / ðɔn-yðɔn | 体が丈夫、元気／弱い |
| lom phát rɛɛŋ / ðɔn | 風が強い / 弱い |
| thon-thaan / mây thonthaan náam | 水に強い / 弱い |
| phaasǎa aŋkɾit kɛŋ / mây kɛŋ | 英語に強い／弱い |
| wítsakii-níi nǎk / bao | このウイスキーは強い／弱い |

〈上手・下手〉の表現；

タイ語では語学、スポーツ、楽器、料理などの得意、不得意の意味のほか、標準以上のレベル（プラス・マイナス）を表すことがある。

- | | |
|---------------|---------|
| 126) nǔɔn kɛŋ | よく寝る |
| đuuum lǎo kɛŋ | 酒飲みの |
| luuum kɛŋ | よく忘れる |
| rian kɛŋ | 勉強ができる |
| khuy kɛŋ | 話上手 |
| thiao kɛŋ | よく遊びに行く |

「下手」は mây kɛŋ (上手ではない) のように否定表現になる。

〈おもしろい・たのしい〉の表現；

理屈ぬきに面白いという場合は sanùk を使うが、これは第一次的な感覚に近く、認知した段階では個別的な使い分けがあらわれる。つまり、読んで面白い、聞いて面白いなどという対象による限定表示であり、動詞の前に nǎa (～してよさそうな) という語をおいてあらわす。

- | | |
|--------------|--------|
| 127) nǎa-àan | 読んで面白い |
| nǎa-faŋ | 聞いて面白い |
| nǎa-duu | 見て面白い |

nâa-sǒncay

興味深い

「おもしろい」にはこの外、「こっけいな」「おかしい」という意味があるが、この場合は taròk, khăm を使う。一方、「楽しい」は「おもしろい」がむしろ属性形容詞（面白い本）であるのに対して、感覚・感情形容詞であり、副詞的に使ったり、kanなどを併用することが多い。

128) rǒɔŋ phleej yàaŋ sanùk-sanǎan 楽しく歌を歌う

129) cháŷ weelaa phlǎət-phlǎən 楽しい時間を過ごす

130) rao sanùk-sanǎan kan mâak 私達は楽しかった

〈痛い〉の表現；

痛み一般に対して日本語では同一の表現か、また程度に応じて「ヒリヒリする」「ズキズキする」などの擬態語をとまなう。タイ語の場合、これらは普通一語であらわされる。一般的には cèp、これは外部的な刺激について用いる。頭が痛い、おなかが痛いなどの内部的な痛みには pùat で、歯の痛みなどのように慢性的な症状にも用いる。また、傷口や太陽に焼けたり、目にゴミが入って「ヒリヒリする」場合は sèep を使う。また、この場合は語順にも気をつける必要がある。タイ語では動詞として扱い、場所などの限定語はそのあとにつく。

131) pùat thǒɔŋ おなかが痛い／おなかが痛む

132) cèp fan 歯が痛い／歯が痛む

133) sèep taa 目が痛い／目が痛む

〈涼しい・冷たい・寒い〉の表現；

温度(触覚)形容詞について、日本語では大気の温度や風に対しては、「すずしい」を用いて、液体や固体などに冷気を感じるものには「つめたい」を使うが、タイ語では yen で、快適さをあらわすのに sabaay が用いられる。特別に寒さを感じる時は nǎao を使う。

134) náam-yen 冷たい水

- 135) yen sabaay 涼しい
 136) wanníi nǎao mâak 今日は大変寒い

〈あつい・あたたかい〉の表現；

日本語では「暑い」と「暖かい」は区別されるが、タイ語では気候に対してはほとんど rǒon (暑い) を使う。いつもの暑さと比べてやや気温が低いときには ùn (暖かい) になる。また、ùn は何かを暖めるとき、つまり、動詞として使われることが多い。

- 137) ùn keep スープをあたためる
 138) kaafæe rǒon ホットコーヒー

〈色彩形容詞〉について；

色彩語については sǐi をつけると名詞になる。A) のように純粹に色の識別をあらわす外に、B) のような比喩的な言い方もみられる。

- 139) A) sūtachǎet sǐi khǎao 白い(色の) シャツ
 krǎpǎo sǐi námtaan 茶(色) のかばん
 kaankeep sǐi dam 黒い(色の) ズボン
 B) cay dam 心が黒い—腹黒い、心が冷たい
 khây dæeɲ 赤い卵—卵の黄身
 dam dæeɲ 黒赤—白黒(真偽)
 sǎŋ khǎao 緑の声—怒った声

この外、類語の問題として sǐadaay, sǐacay 「もったいない／残念な／惜しい」、sadùak 「都合がいい、便利」、rópkuan 「邪魔な、迷惑な」などがあるが、これらの使い分けについても場面に応じた選択が必要である。
注22)

5. 2 否定と反対語

日本語では例えば「上手」に対して「下手」という対応する反対語があるが、タイ語では対応する一語はなく、否定詞を使ってあらわす。このよ

うな意味の関係にあるものとして、次のものがある。

140) kèŋ	上手	mây kèŋ	下手
arɔ̄y	おいしい	mây arɔ̄y	まずい
dii	いい	mây dii	悪い
chɔ̄ɔp	好き	mây chɔ̄ɔp	嫌い
sadùak	便利な	mây sadùak	不便な
sabaay	元気な	mây sabaay	病気の

中には、右のように一語であらわされるものもあるが、意味は強調される。

141) mây chɔ̄ɔp	好きではない	kriat	嫌いな
mây dii	よくない	leo, chûa	悪い

また、否定形式の可能表現のなかにも、いわば連語的な構成となつて、形容詞的な意味をあらわすものがある。このような表現もタイ語の語構成を^{註23)}考えるうえで興味深い点の一つである。

142) priap mây dâay	比較できない、特別な
cháy mây dâay	使えない、だめな
chûay mây dâay	救えない、仕方がない
sûu mây dâay	太刀打ちできない、えりすぐれた

ここで「親切／不親切」という言葉について述べておこう。「親切」にあたるタイ語は caydii のほかに次の言い方が場面によって選択される。

143) mii námcaay	情がある
mii mêettaa	慈悲深い
ɔ̄ɔp-ɔ̄ɔm-aarii	気持ちがある
athayaasay dii	愛想がいい

また caydii には「慈悲心のある」「思いやりのある」などの広い意味があるので、日本語の「親切」とは必ずしも意味が一致しないことに注意しなければならない。一方、「不親切」では、多くのタイ人によって、行為を与え

る側と受ける側とによって言い方が異なることがしばしば指摘される。

144) A) *mây caydii, mây mii námcaj* 不親切

B) *cay mây dii* 不親切(で気分が悪い)

A) の場合は普通の否定形であり、その当事者のことを指しているが、B) は相手の不親切さに対してその行為を受けた本人の不快な気持ちをあらわしていることになる。

6. 終わりに。一言語表現と文化背景—

使用頻度の高い形容詞には日本語と当然異なる発想、背景があり、そこには日常の思考・習慣・通念としての発想にもとづく語彙の選択がある。価値概念に基づく形容詞語彙として次のものがしばしばとりあげられる。

145) *sabaay* 気持ちがいい *ríap-róoy* きちんとした

sanùk 面白い *sùphâap* ていねいな

bùua つまらない *nùay* 疲れた

khayǎn 勤勉な *khii-kiat* 怠け者の

これらは単に意味としての機能のほかに、日常行動を規定するところの挨拶表現、伝達形式などの社会機能的な意義も認められるのである。いわばタイ人の精神構造を象徴するようなこれらの言葉の意味はまことに深く、かつ幅ひろく、これをただちに日本語的な訳におきかえる冒険は危険であると言えよう。言語の表層構造とともに、深く互いの文化的側面にも興味を抱かなければならない所以である。その理解の過程において、よく言及されるころの、タイ人の思考・発想の形式主義、権威主義、個人主義といった一面的な理解も修正をせまられることになろう。^{注25)} 語彙の比較対照によって広く文化のエトスを享受したいと思う。

以上、ごく概括的にタイ語の形容詞の様相をみてきたわけであるが、意味範疇に関して言えば、類義語、多義語の問題も多く残されている。例え

ば、rīap-rōoy ということばは、第一義としては「きちんとしている、整然としている」という意味であるが、人の性格に使えば「丁寧な、じつげのいい」といった意味になるし、一方、仕事や準備が滞りなく完了しているという場合に用いられる。構文的要素とともに、こうした場面や人称に制限された形容詞の意味の領域についても、今後いっそうの研究がまたれる。

〈注記〉

本文中のタイ語のローマ字表記（国際音標文字）は富田（1987）にほぼしたがう。例文、例句についてはタイ語の教科書、辞書からの引用が多い。

〈註〉

- 1) 最近では Pornpilas (1985)などを参照。kin (食べる), noon (寝る)などを動作動詞“action-verb”, sūay (美しい), yao (長い)などを状態動詞“stative verb”と分類している。
- 2) 名詞的な転成も頻繁に観察される。tham dii dāy dii tham chūa dāy chūa (良いことをすれば徳を受け、悪いことをすれば罪を得る)などの dii, chūa はそれぞれ目的語となっており、名詞扱いである。また m̄ay s̄aap raaylayiat (詳しいことは知らない)の raaylayiat は副詞的でもあり、名詞的でもある。
- 3) 形容詞名詞句で注意すべき点の一つは、総称と個別の指示である。すなわち、「大きい靴」は一般的な規定であり、直接に名詞を修飾して kr̄ap̄ăoȳaȳ といい、「靴の大きい」のように特定の事物を指している場合、kr̄ap̄ăō baȳ ȳaȳ のように類別詞を用いるのが普通である。
- 4) 日本語の並列助詞「と」に相当する接続語として、タイ語にはほかに

kàp があるが、原則として動詞、形容詞の並列文には用いられない。

- 5) 例えば、「この果物は古いです」の「古い」も「古くなっている(状態)」を意味することから、phǎnlamáay níi kào léεo のようにタイ語では完了の助動詞 léεo を必要とする。
- 6) 「やせている、太っている」はそれぞれ phǎom、ûon というが、「やせる、太る」のように変化を表す場合は phǎom loj、ûon khûn のように日本語にはあらわれない方向動詞を必要とする。
- 7) 形容詞の反復語は強調だけでなく、元の形容詞より意味が弱くなる場合もある。例えば dεεj-dεεj はどちらかという赤系、赤っぽいという意味で、kào-kào も完全に古いとは言えないが、古いと言えなくもないという意味で用いられる。宮本マラシー(1990) p.161. また、反復することによって意味の変わるものもある。

chǎy ; のろい chǎy-chǎy ; 平気だ

rúay ; 絶えない rúay-rúay ; 相変わらず、ずっと 等

- 8) 否定詞を前に置いて言った場合、例えば mây phûut chát では、chát は本来 hây chát 「はっきりさせる」の意味をもち、遠慮して、または気を遣ってあいまいに「はっきり話そうとしない」のように否定のスコープが話し手の意志的な要素にかかる特徴がある。また、

tham pay mây talđot 最後までやり通さない

[する・いく・ない・ずっと]

の文は、例えば途中でしかたのない事態が起こったり、障害があっただけなくなったという、つまり外的な条件でできないという意味であるが、この may の位置を動詞の前にもってくると、

mây tham pay (hây) talđot 最後までやろうとしない

のように、自分側の都合で遂行しないという意味になる。このように mây の位置によって意志性が異なってくる点には注意が必要である。

9) dii の共通した機能として、とりたてた働きがある。

10) 形容詞述語文の成立条件としては、いくつかのタイプがみられる。例えば、前件と後件の接続語として læy や cuŋ、thamhây をもって、結果を導くものや、単に二つの文を並べて用いるもの、条件文の主文にあらわれるものなど、さまざまである。

thùk thăam khamthăam læy cay-mây-dii	質問されて気分がよ
[される・問う・質問・で・気分が悪い]	くない
fõn tòk yùu dâi thúk-wan bûa cŋcŋ	毎日雨ばかり降って
[雨・降る・いる・毎日・いや・本当]	いやになる
thâa thŋ kô nâa-săadaay	捨てるのは勿体ない
[たら・すてる・も・残念だ]	

sŋ roŋpaan daŋ khâo-maa thamhây nùak-hũu	工場の音が響い
[音・工場・大きい・入る・させる・うるさい]	てうるさいです

11) ここにあげたもののほか、次のような補文構造のタイプがみられる。

mây dii thŋ piak fõn mûa-waan-nii	昨日雨にぬれたのがよく
[よくない・〈関〉・ぬれる・雨・昨日]	なかった

mûa-cháo-nii plèek thŋ tùun tēe-cháo	今朝は珍しく早く起きま
[今朝・珍しい・〈関〉・起きる・朝から]	した

yaŋ reo kəən-pay thŋ cá khâo-nɔɔn	寝るにはまだ早いです
[まだ・早い・過ぎる・〈関〉・〈未〉・寝る]	

mûa-cháo-nii kwàa-cà tùun dâi thêp-yêe	今朝は起きるのがつ
[今朝・まで・起床・できる・つらい]	らかったです

なお、日本語の「の」のうめこみ文とタイ語の補文構造 thŋ、wâa との比較については別稿を準備中である。

12) この対照比較については閻立羽 (1983) に詳しい考察がある。

13) sŋacay と nâa-sŋacay をくらべた場合、いずれも「残念な、もったい

ない」の意味であるが、nâa を冠したほうが、詠嘆的、感情的な判断が強く感じられる。

- 14) khôy-khôy のように文中の位置により、意味が変わるものがある。動詞の前に置かれると、「ゆっくり、そろそろ、気をつけて」、動詞の後につくと、「軽く、小さな声で、そうっと」などの意味になる。

a.	khôy-khôy phûut	少しずつ話す
a'.	phûut khôy-khôy	そっと話す
b.	khôy-khôy dæən	そろそろ歩く
b'.	dæən khôy-khôy	静かに歩く

- 15) 三谷 (1989)。このように状態修飾か結果補語的な用法かは形容詞の副詞的用法を考えるうえで、語順的にも重要な点である

- 16) 例えば、plian rót mày 「新しい車にかえる；買いかえる」の mày は形容詞修飾とも、補助動詞ともいえる。

- 17) 可能の助動詞 dây のあとに形容詞がくる場合と、hây のあとにくる場合とでは、同じく結果性をあらわしてはいるが違いがみられる。

càt weelaa dây dii	うまく時間をあわせる
càt weelaa hây dii	ちゃんと時間をあわせる

- 18) 「音を小さくする」も日本語では一般動詞化しているが、タイ語の場合、rîi hây bao loj 「(音を)しぼって小さくする」のように結果に言及するための具体的な動作動詞を必要とする。

- 19) この繰り返す意味の「また」とは別の言い方に、「さらに」という累加的な意味の iik を用いる場合がある。

maa iik	また(なおも)来る
mây maa iik	もう来ない

- 20) 同じ濃さでも、味が強い場合は càt、コーヒーのような場合は kèε のように使い分ける。

- 21) 「早く寝る」の「早く」も「いつもの時間より早く」なら tɛɛ cháo、「宵の口から」なら tɛɛ hũa-khâm などと使い分ける。
- 22) 「丁寧に」も「注意して」「詳しく」「きちんと」「心をこめて」など、状況に見合った言い方を選択する必要がある。
- 23) タイ語の可能表現の概略については田中(1989)を参照されたい。
- 24) プロトタイプ的な見方については文献24.に学ぶところが大きい。
- 25) タイ人の思考様式については文献21.~23.などを参照。

〈参考文献〉(順不同)

- 1) Pornpilas Ruanghotwit (1985) “Prayoot rap nay Phasaa Thay” Aksonsart Niphon 4 Faculty of Arts, Chulalongkorn University
- 2) Nawaawaan Phanthameetaa (1970, 1984) “Kaan Chay Phaasaa” borisat kanphim satrisan camkat, Bangkok
- 3) — (1985) “Wayyaakon Thay” rungruengsan kanphim, Bangkok
- 4) 閻立羽 (1983) 「漢語和泰語的聯綿詞」『民族語文』第3期
- 5) 潘德鼎編 (1989) 『泰語基礎教程1・2・3』北京大學出版社
- 6) 三谷恭之 (1989) 「タイ語」『言語学大辞典』第2巻 三省堂
- 7) 西尾寅弥 (1976) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 8) 森田良行 (1980) 「日本語の形容詞について」『講座日本語教育16』早稲田大学語学教育研究所
- 9) 奥津敬一郎 (1983) 「変化形容詞における形容詞移動」『副用語の研究』明治書院所収
- 10) 寺村秀夫 (1984) 「形容詞の働きには何がひそんでいるか」『国文学解釈と教材の研究』26巻6号
- 11) 細川英雄 (1989) 「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』158集 国語学会 武蔵野書院

- 12) 田中寛 (1989) 「タイ語の可能表現」『言語と文化』文教大学言語文化研究所紀要 第2号
- 13) 池上嘉彦 (1975) 『意味論—意味構造の分析と記述—』大修館書店
- 14) 池谷彰 (1990) 「形容詞の解釈—英語と日本語(1)」『英語青年』6月号 研究社
- 15) 峰岸真琴 (1990) 「タイ語と日本語」近藤達夫編『講座日本語と日本語教育』第12巻言語学要説(下) 明治書院所収
- 16) 宮本マラシー (1990) 『タイ語の重要な文法と会話』大阪外国語大学
- 17) Sutheep Noomsawat (1987) “Wayyaakoon Phaasaa -Yiipun Buanton” (国際交流基金『日本語初歩』タイ語版文法解説書) Bangkok
- 18) 国際交流基金 (1989) 『基礎日本語学習辞典』(タイ語版) Bangkok
- 19) 富田竹二郎 (1987) 『タイ日辞典』養徳社
- 20) photchanaanukrom chabapbanditsathan (1984) タイ国学士院国語辞典改訂版 Bangkok
- 21) 綾部恒雄・藤山正三郎 (1977) 「タイの人間認識」『アジア経済』第17巻 第3号 アジア経済研究所
- 22) 友杉孝 (1979) 「構造分析によるタイ社会史解釈の試み」『アジア経済』第20巻 第4号 アジア経済研究所
- 23) 青木保 (1981) 『文化の翻訳』岩波書店
- 24) J.R.Taylor (1989) “Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory” CLARENDON PRESS OXFORD